

Appleデバイス管理

初心者ガイド





Forbesの調査によると、エンタープライズにおけるAppleデバイスの採用は毎年20%ずつ成長しています。

世界中のビジネスや教育現場でAppleデバイスの採用が進む中、テクノロジーへの投資効果を最大化し、Mac、iPad、iPhone、Apple TVを最大限に活用することが不可欠となっています。しかし、新たに採用される多数のAppleデバイスの管理は、特にWindows環境に慣れているIT管理者にとっては大きな負担となります。さらに、リモートワークやリモート学習など、場所を問わず仕事や学習をすることが「ニューノーマル」になった今、セットアップから継続的なサポートまで、デバイス管理の重要性が高まっています。

すでにAppleについて熟知している方もいれば、初めてAppleデバイスの管理に飛び込む方もいるでしょう。主に後者に向けて作られたこのガイドでは、Appleデバイスの管理スキルのマスターに役立つ以下のトピックについて説明します。



Appleデバイス
管理の基本



Appleのサービスと
プログラム



Appleの
ライフサイクル管理を
理解する



インフラ計画に
必要な知識



業界トップクラスの
Apple管理
ソリューション



Appleデバイス 管理の基本

Appleデバイスの管理に取り組む際には、そのライフサイクルのステージごとに一般的なタスクを割り当てるのがベストです。これらのタスクは、管理対象がAppleデバイスであっても、Apple以外のデバイスであっても、あるいはその両方の組み合わせであっても、変わることはありません。

MDM (モバイルデバイス管理) のしくみ

ほとんどのAppleデバイスにはMDM (モバイルデバイス管理) フレームワークが内蔵されており、リモートワイプやパスコード制限などの設定を適用することができます。MDMフレームワークの中核を成すのは、**構成プロファイル**と**管理コマンド**です。

これらがAppleプッシュ通知サービス (APNs) を介してデバイスと通信し、組織データのプライバシーを保護するための証明書がAppleから送信されます。IT管理者が何もしなくても、デバイスとの通信は継続的に行われ、デバイスが管理サーバに通信を戻したタイミングで、あらかじめ定義されたコマンド、設定、構成またはアプリが送信されます。



構成プロファイル

構成プロファイルは、Appleデバイスの様々な設定を定義し、動作を指示するためのXMLファイルで、パスコード設定やWi-Fiパスワード、VPN (仮想プライベートネットワーク) の構成の自動化に使用することができます。また、App Storeやウェブブラウザなどのデバイス機能や、デバイスの名前を変更する機能などに制限を適用することもできます。構成プロファイルは、Jamfを使って指定・導入することができ、デバイスまたはユーザーレベルで設定することが可能です。



管理コマンド

管理コマンドは、管理対象のデバイスに特定のアクションを実行させるために送信するコマンドです。例えばデバイスが行方不明になった場合は、紛失モードを有効したり、コマンドを送信してリモートワイプを実行することができますOSのアップグレードが必要な場合は、アップデートのダウンロードとインストールを行うコマンドを送信します。これらは、完全に管理されたAppleデバイスで実行可能なアクションのほんの一例です。



MDMとクライアント管理

AppleのMDMフレームワークには、iPadOSやiOS、tvOSデバイスが必要とする基本的な制御機能が用意されていますが、より堅牢なプラットフォームであるmacOSの場合は、より高度な機能が必要となる場合があります。macOSのみで利用可能なクライアント管理機能を活用することにより、デバイスがMDMに登録された直後からMacエージェント（またはバイナリ）をインストールすることができます。

このエージェントは、非表示の管理者アカウントの追加やルートユーザによるmacOSへのリモートアクセスを可能にし、コンピュータ上でより多くのポリシーやスクリプトを実行することができるようになります。エージェントベースのMac管理を行うには内蔵のMDMでは事足りません。Jamfのようなサードパーティのソリューションを活用することで、高度なMac管理が可能になります。

クライアント管理機能の例



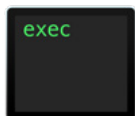
PKGやDMGのインストール



FileVaultの実行



ディレクトリへの紐付け



スクリプトの実行



Dockのカスタマイズ



EFIパスワードの設定



プリンタのインストール



アカウントの作成



ソフトウェアアップデートの設定





Appleのサービス とプログラム

教育機関や企業でAppleデバイスが普及するにつれ、デバイスを大規模に導入する最適な方法や、Apple IDやアプリ購入にどう対処するかについてさまざまな課題が生じるようになりました。Appleはこれらの疑問を解消し、簡単かつコスト効率の良いデバイスの一括管理を実現するために、より優れたデバイス管理プログラムやサービスを導入しました。

しかしながら、すべてのAppleデバイス管理ソリューションが、Appleのプログラムやサービスに対応しているわけではありません。ご利用中のソリューションがこれらのプログラムやAppleが定期的に行うアップデートに対応しているかどうか、ベンダーに確認することが重要です。



ゼロタッチ導入

この自動登録プロセスにより、指一本触れずにAppleまたは販売代理店から購入したMac、iPad、iPhone、Apple TVを構成し、各デバイスをユーザ向けにカスタマイズすることが可能になりました。購入したハードウェアは、Apple Customer NumberまたはReseller IDに関連付けられ、Appleの管理ソリューションに自動的に登録されます。さらに自動デバイス登録を行うことで、エンドユーザに優れたゼロタッチ体験を提供することができます。ユーザがリモートで働いていても、またはオンサイトにいても、デバイスを開封して電源を入れるだけで、すぐに仕事を始めることができます。



デバイスの監視

監視は、自動デバイス登録、ユーザー承認MDM、Apple Configurator経由で登録されたiPadOS、iOS、tvOSの管理を行うIT部門により大きなコントロールを与えるモードです。紛失モード管理、アプリのブロック、アプリのサイレントインストールなどを含む多くの管理機能は、管理対象のデバイスに対してしか使用することができません。企業または教育機関所有のデバイスには監視対象モードを適用することをお勧めします。



Appとブック

AppleからAppやブックを一括購入し、Apple ID経由で（またはApple IDがない場合は直接）、ユーザに配布することが可能です。導入ニーズに変化があった場合は、Appを再割り当てすることもできます。Appleから受け取ったトークンは、MDMソリューションにリンクして割り当てや配布に使用します。教育機関の場合、インスタンスはApple School Manager（次ページ参照）で直接作成されます。



Apple ID

Apple IDは、App Store、iTunes Store、iCloud、iMessageなどのサービスにアクセスするためにユーザが使用するアカウント認証情報です。組織のニーズに応じて、エンドユーザのApple IDを業務に使用したり、またはApple IDをまったく使わないこともできます。教育機関の場合、生徒には異なる種類のApple IDが提供されます（詳細は次のページをご覧ください）。



Apple School Manager

Apple School Managerは、ユーザ、デバイス、コンテンツを一ヶ所で管理できる、IT管理者向けのウェブポータルです。教育機関専用のこのポータルには、自動デバイス登録やAppとブックの一括購入に加えて、クラスルームAppなどの教室管理ツールも揃っており、管理対象Apple IDや共有iPadの管理を行うことができるほか、生徒情報システム(SIS)との統合も可能です。



管理対象Apple ID

Apple School ManagerまたはApple Business Managerのポータルでは、管理対象Apple IDを作成することができます。管理対象Apple IDは特別な許可を必要とせず、組織によって所有されるため、IT管理者が作成し、必要に応じて動的にユーザ情報をアップデートすることが可能です。



共有iPad

共有iPadは、複数のユーザにアクセスを提供することができるため、1台のiPadの価値がさらに高まります。ユーザは個別の管理対象Apple IDでログインし、必要なアプリやコンテンツ、タスクなどにアクセスすることができます。共有iPadは、教育機関だけでなくエンタープライズでも利用できます(Arrow School ManagerまたはApple Business Managerが必要です)。



Apple Business Manager

ITチームやビジネス向けの無償プラットフォームであるApple Business Managerは、MDMソリューションと組み合わせることで、デバイスの導入、アプリの導入や購入、コンテンツの配布を自動化することができます。Apple School Managerと同様に、自動デバイス登録と一括購入をひとつのポータルから行うことができます。





ライフサイクル 管理のステージ

Appleのデバイス管理フレームワーク（「MDMフレームワーク」）には、Appleデバイスのライフサイクルを構成する6つの要素が含まれています。

Apple製品に内蔵されている管理フレームワークであるMDMは、macOS、iOS、iPadOS、tvOSで利用でき、次のような機能を提供します。

1 導入と プロビジョニング

デバイスをエンドユーザーに届けます。

2 構成管理

デバイスに正しい設定を適用します。

3 アプリ管理

各デバイスに適切かつ最新のソフトウェアとアプリがインストールされていることを確認します。

4 インベントリ管理

各デバイスの状態について報告します。

5 セキュリティ

組織の基準に沿ってデバイスを保護します。

6 ユーザ支援

リソースやサービスへのセルフアクセスをユーザーに提供します。

導入からエンドユーザーエクスペリエンスに至るまで、組織の環境におけるデバイスのライフサイクル全体を理解し、管理・サポートすることが重要です。これにより、Appleデバイスのセキュリティを確保すると同時に、そのパワーを最大限に引き出すことができます。



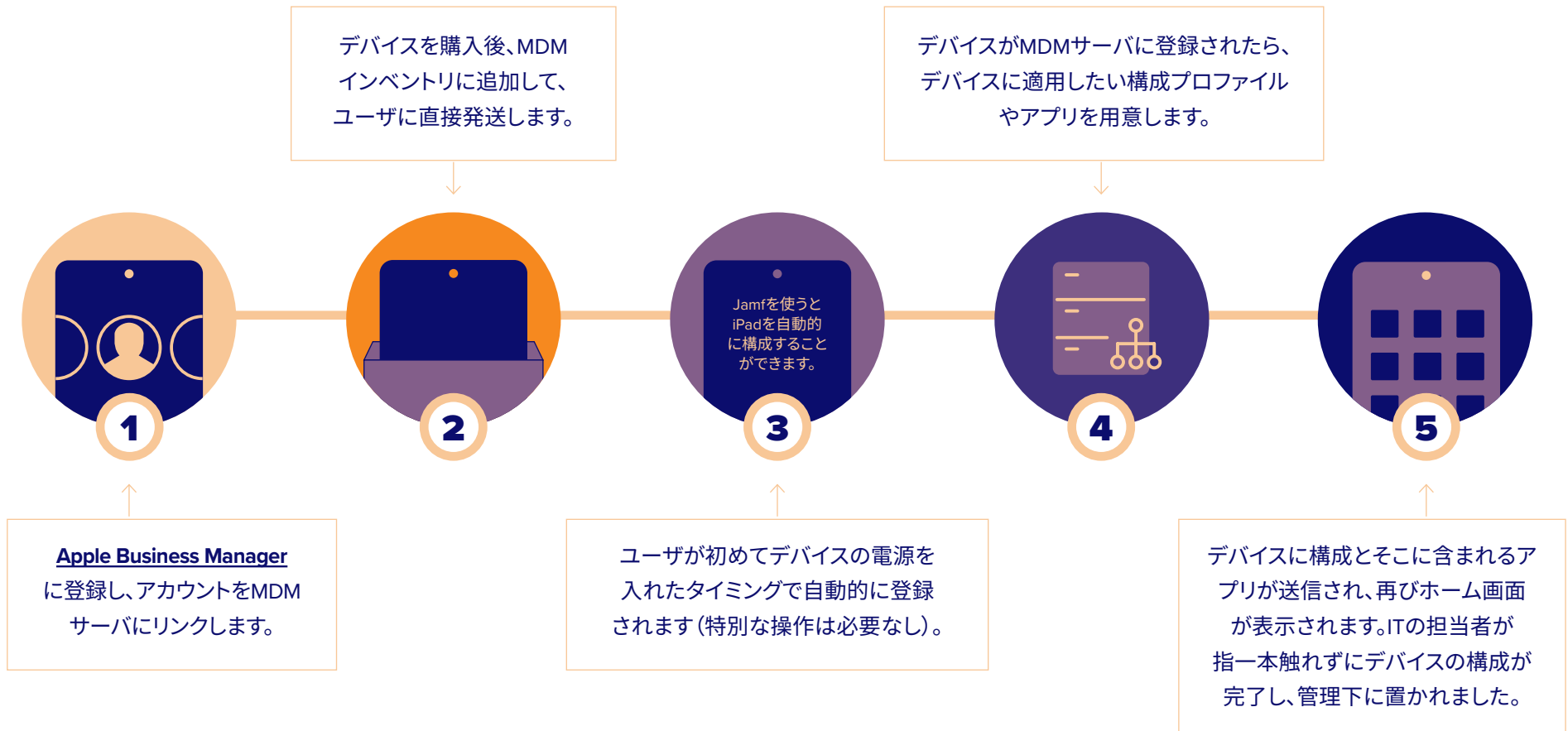
導入とプロビジョニング

エンドユーザ向けにデバイスを構成する前に、デバイスをMDMソリューションに登録する必要があります。登録方法は複数ありますが、効率的でポジティブなユーザエクスペリエンスを求める企業や教育機関には以下の方法を推奨します。

	説明	ユーザ エクスペリエンス	監視 (iOSのみ)	最適なケース
Apple Business ManagerまたはApple School Managerを使った自動デバイス登録	自動登録機能 (オンライン)	ユーザがデバイスを受け取って電源を入れた瞬間に自動的に構成されます	あり(無線)	開封してすぐに使用できるため、リモートワークをする従業員に直接デバイスを発送したい、または迅速なセットアップを希望する場合に最適です
アカウント駆動型 ユーザ登録	設定メニューからの 手動登録(オンライン)	ユーザがデバイスの設定メニューから登録ポータルにアクセスし、MDMプロファイルをインストールします	なし	新しいMDMサーバに登録する必要がある、管理対象外の個人所有デバイス
ユーザ主導の登録	手動による登録 (オンライン)	ユーザが特定のURLにアクセスし、デバイスの設定を行います	なし	管理対象外のリモートデバイスがある場合、またはデバイスを新しいMDMサーバに再登録する必要がある場合
Apple Configurator (iOS、tvOSのみ)	USBでデバイスに接続されるMacアプリ経由の登録 (Apple TV 4Kは適用外)	IT部門がセットアップを行い、デバイスをユーザに手渡します	あり(有線)	共有デバイスやコンピュータカートなど



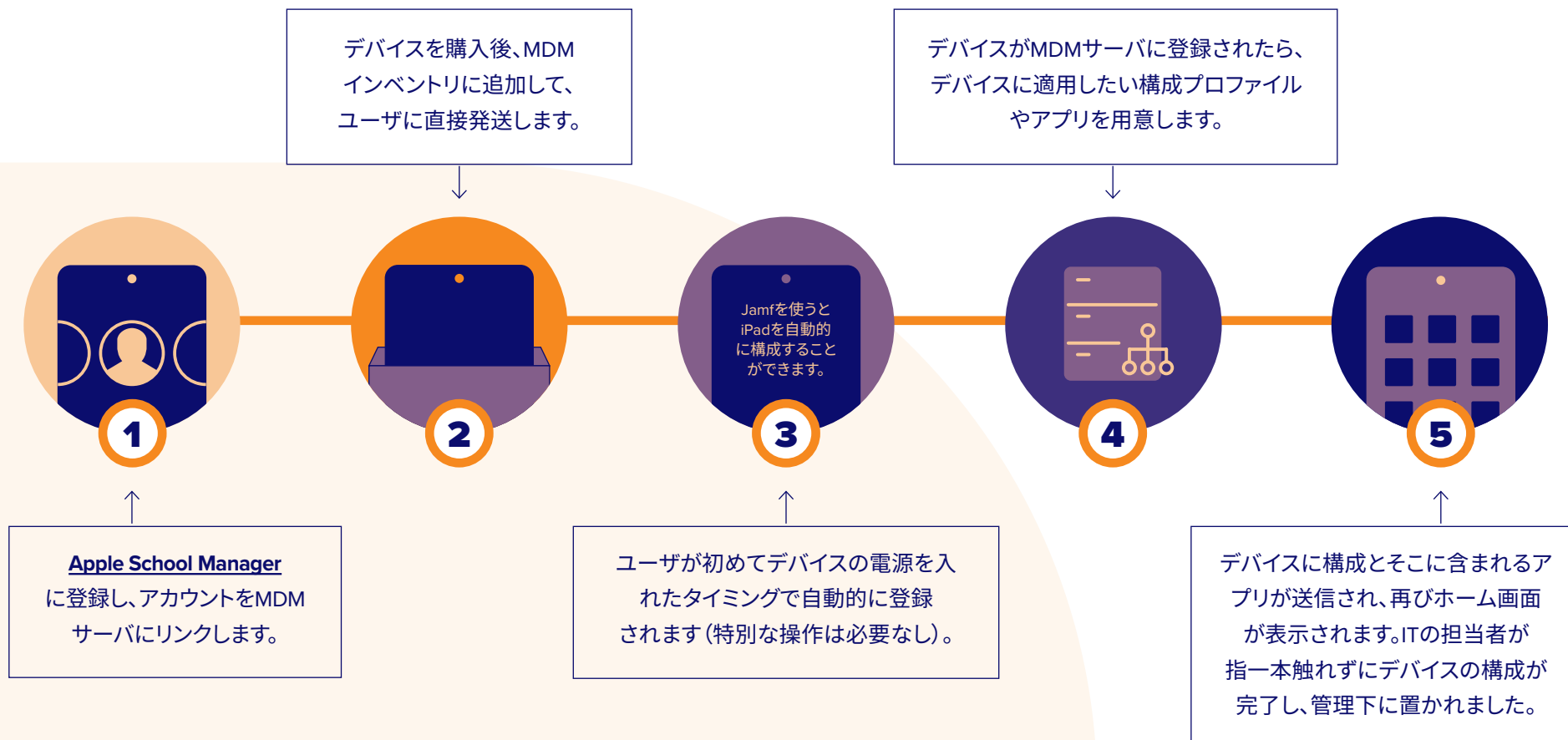
Apple School Managerを使った自動デバイス登録



クラウドIDプロバイダを使用する場合、デバイスはユーザのクラウドIDに基づいてプロビジョニングされ、単一のクラウドID認証情報でいつでも必要なアプリケーションやサービスにアクセスできるようになります。



Apple Business Managerを使った自動デバイス登録



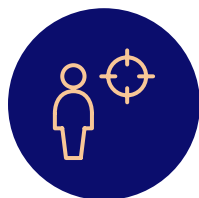
構成管理

Appleデバイスの構成はさまざまな方法から選んで行うことができ、エンドユーザーのニーズに応じて、個々のデバイスやデバイスのグループをさまざまな形でパーソナライズし、カスタマイズすることができます。



構成プロファイル

構成プロファイルは小さなXMLファイルから構成されており、macOS、iOS、iPadOS、tvOSの設定を定義するために使用されます。これらを管理ソリューション経由でデバイスに配布することで、ユーザーが必要なリソースにシームレスにアクセスできるように、Wi-Fi、VPN、メール設定などを含む数多くの設定を適用させることができます。



スマートターゲティング

管理対象のどのデバイスがソフトウェアアップデート、セキュリティ強化、その他の管理アクションを必要とするかを特定するために、あらかじめ定義されたカスタム属性を含むインベントリ詳細を収集します。また、インベントリの基準に基づいてグループを作成し、特定の個人またはグループに対してデバイス管理タスクを自動的に有効化したり、ユーザーが自分でアクセスできるようにアイテムを組織のアプリカタログに用意したりすることも可能です(ご利用のデバイス管理ソリューションによってはできない場合もあります)。

何から始めたらいいのかわからない場合は、一般的なMDMの構成プロファイルが記載された[こちらのリスト](#)をご参照ください。また、[Jamf Nation](#)で相談することもできます。



ポリシー

macOSのクライアント管理ソリューション特有の機能であるポリシーは、MDMの構成プロファイルが持つ基本的なデバイス管理機能の枠を超えて、カスタムソフトウェアやプリンタのインストール、ローカルユーザーアカウントの管理、高度な管理ワークフローの実行などを可能にします。これにより、自動化したいタスク、実行の頻度やタイミング、どのユーザーまたはデバイスに対して実行するかななどを指定することができます。



スクリプト

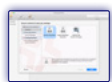
ポリシーの一環として、クライアント管理ソリューションに含まれるAppleデバイス管理能力を利用して、macOS上でシェルスクリプトを実行します。ターミナルでコマンドラインを使って実行できるものであれば、何でもスクリプトにすることができます。スクリプトは標準的な構成プロファイルよりもはるかに柔軟性があり、無限のデバイス管理能力を可能にします。

アプリ管理

アプリの基礎

私たちはiPhoneやiPad、Apple TVなどのデバイスで日常的に利用しているApp Storeは、デバイスにインストールするアプリを入手できる唯一の場所です。Appleはセキュリティとパフォーマンスの観点から開発者のコードを審査しており、これが理由でAppleはセキュリティ面で高い評価を得ています。しかし、App Store以外で手に入るMac用のソフトウェアも存在します。

その中にはGoogle Chrome、Microsoft Office、Adobe Creative Suiteなどの人気ソフトウェアも含まれており、カスタムソフトウェアを導入できるMacクライアント管理ツールが必要になります。Jamf Proに代表される管理ツールの中には、インストール前後のスナップショットを作成することで、カスタムの.pkgや.dmg (Macソフトウェアのインストールファイルタイプ) を構築することのできる機能を持つものがあります。このようなソフトウェアパッケージは、ユーザ側で何もしなくても管理対象のMacに導入することができます。



ソフトウェアインストールの
スナップショット作成



カスタムの.pkgまたは
.dmgファイルの作成



Jamf Agent経由でプ
ッシュインストール

App Storeで提供されているソフトウェアの場合、Appleのプログラムを利用することで、Apple IDを使わずにすべてのデバイスに対してアプリを配布することができます。

コミュニケーションや学習、生産性を向上させるためのネイティブなツールが内蔵されているAppleデバイスは、消費者に広く普及しています。そして、Appleのエコシステムの人気をさらに際立たせるのがApp Storeに用意された豊富なアプリのライブラリです。アプリの導入を管理するデバイス管理ソリューションを採用することで、ユーザが必要なアプリを適切に使用できるようにするとともに、組織の環境に合わせたセキュアな運用を実現することができます。

デバイスにプリインストールされたAppleのアプリ、App Storeに豊富に揃ったアプリ、あるいは自社製のカスタムアプリのいずれを利用する場合でも、必要なアプリが安全に利用できる環境を用意することが重要です。

ソフトウェアのインストールとパッチの適用

Jamf Title Editorは、Jamf Proが提供するmacOSデバイス向けのパッチ管理機能を拡張し、カスタムソフトウェアタイトルの提供や既存のパッチ定義の上書き、カスタムパッチ定義の作成を可能にします。さらに、Jamfではサードパーティ製アプリを効率的に導入するための「Appインストーラ」と呼ばれるインストーラパッケージも提供しています。

アプリ管理を通して行うことのできる3つのタスク



Apple Business ManagerまたはApple School Managerを使ってアプリを導入



Jamf Proで作成したオンデマンドのセルフサービスカタログ経由でアプリを配布 (詳細は後述)



Apple TV向けにアプリを導入



アプリ管理

Apple School ManagerまたはApple Business Manager経由でApp Storeのアプリを導入すると、そのアプリのセキュリティと構成がさらに強化されます(iOSのみ)。



アプリ管理のメリット



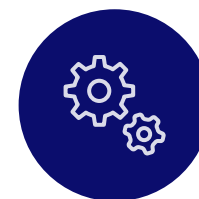
管理対象App

iOS 5で導入された管理対象Appは、標準アプリと異なり組織によって所有されているものとして取り扱われ、具体的には、配布や構成、再割り当てがMDM経由で行われます。



Managed Open In

Managed Open Inは、管理対象Appの概念をさらに一步前進させ、ひとつのアプリから別アプリへのデータの流れを制限することを意味します。MDMを利用することで、iOSでドキュメントを開く際に共有シートに表示されるアプリを制限することができます。これにより、コンテナを必要としない真の意味でのネイティブなデータ管理が可能になります。



アプリ構成

アプリを単に導入するのではなく、いくつかの設定を事前にカスタマイズしたい場合もあります。これがアプリ構成と呼ばれるもので、アプリ開発者は、MDMサーバで事前に構成できる項目をあらかじめ定義することができます。たとえば、サーバのURLがすでに入力された状態でBoxアプリを導入するように定義しておけば、ユーザはユーザ名とパスワードを入力するだけでアプリを起動できるようになります。



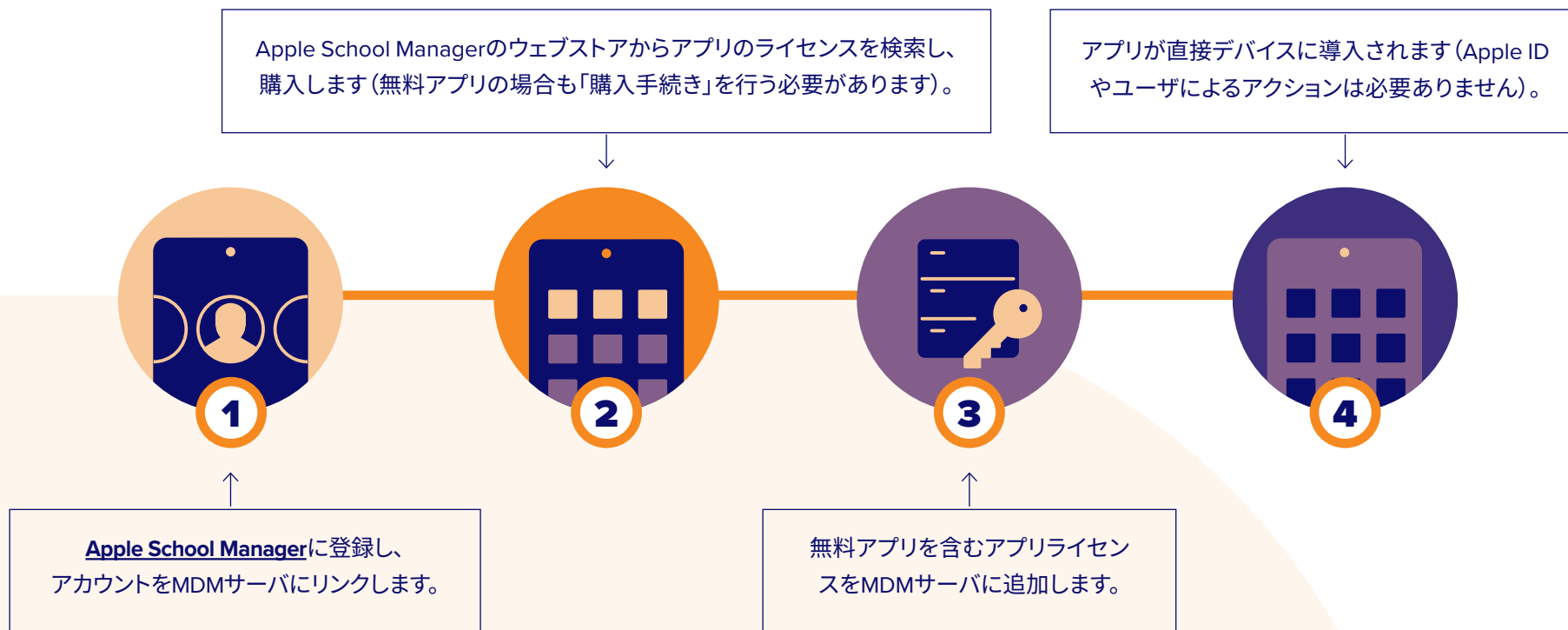
エンタープライズにおけるApple Business Managerを使ったアプリ導入

Apple Business Managerは、アプリの一括購入や自動配布を可能にするエンタープライズ向けの機能を備えています。





教育機関におけるApple School Managerを使ったアプリ導入





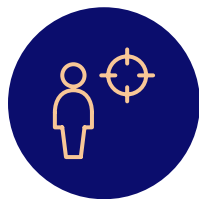
Apple TVにアプリを導入

Apple TVは、エンタープライズアプリ(自社アプリ)にも対応しています。これらのアプリはiOSデバイスの場合と同様に、管理サーバにアップロードすることで、Apple IDなしでApple TVデバイスに自動的にプッシュすることができます。Apple TVでよく使われるエンタープライズアプリには、デジタルサイネージや緊急アラートなどがあります。



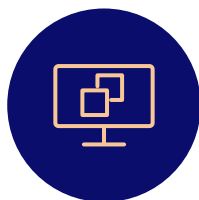
構成プロファイル

MDMソリューションがあれば、IT管理者はtvOSの構成プロファイルで定義した設定をApple TVデバイスに配布することができます。これにより、Wi-Fi、制限、AirPlayなどの設定をより簡単に適用することができます。さらに、Single Appモードを適用してクラスごとにApple TVデバイスの使用をカスタマイズしたり、会議表示モードで直感的なプレゼンテーションワークフローを実現したりすることができます。



スマートターゲティング

すべての管理対象デバイスからApple TVデバイス名を含むインベントリの詳細を自動的に収集する機能を利用することで、IT部門はアクションが必要なデバイスを迅速かつ正確に特定することができます。このインベントリ情報に基づいてターゲットグループを構築すれば、デバイスの管理タスクを自動的に行うことが可能です。例えば、AirPlay設定が構成されていないすべてのApple TVデバイスを見つけ出し、それを一斉に導入することができます。



カスタムアプリとディスプレイ対応

大きな画面でアプリを確認したい場合は、カスタムアプリをMDM経由でApple TVに導入することが可能です。さらに、最新のtvOSでは、ホーム画面のレイアウト設定、アプリの表示・非表示、対象年齢に基づくメディアコンテンツの制限などが行えるようになっています。

Apple TVについて 詳しく知りたいですか？



ぜひ当社のeBook
「初めてのApple TV管理」
をご覧ください。

MENU





インベントリ

MDMソリューションは、クエリを作成してAppleデバイス上で大量のインベントリデータを収集することができるため、常に最新のデバイス情報を入手し、十分な情報に基づいた管理上の意思決定を行うことができます。シリアル番号、OSバージョン、インストールされているアプリなどのインベントリ情報を、さまざまな頻度で収集することが可能です。

MDMで収集できるデータ



ハードウェアの詳細

- デバイスの種類
- デバイスモデル
- デバイス名
- シリアル番号
- UDID
- バッテリー残量



管理の詳細

- 管理ステータス
- 監視ステータス
- IPアドレス
- 登録方法
- セキュリティステータス



ソフトウェアの詳細

- OSバージョン
- インストール済みのアプリ
- ストレージ容量
- 空き容量
- iTunes Storeのステータス



追加情報

- インストール済みのプロファイル
- インストール済みの証明書
- アクティベーションロックのステータス
- 購入情報
- インベントリの最終アップデート





インベントリ

インベントリが重要な理由

状態がわからないものを管理することはできません。MDMソリューションが収集するインベントリデータは、さまざまなビジネスニーズに応え、よくある疑問に答えてくれます。



すべてのデバイスに対して安全が確保されているか

いくつかのアプリが導入されているか

特定のデバイスにどのiOSのバージョンが搭載されているか

管理ソリューションの中には、特定のハードウェアやソフトウェアのアドオンに関するカスタムインベントリを追加で収集できるものもあります。例えば、サードパーティ製のバックアップツールが最後に実行されたのはいつか、どのプリンタドライバがインストールされているかなどを把握することができます。

スマートターゲティング

インベントリデータを活用したスマートターゲティングでは、デバイスを動的にグループ化し、構成プロファイルや制限を導入することができます。Jamfでは、これを「スマートグループ」と呼んでいます。

スタティックグループ

プロファイルまたはポリシーを適用



スマートグループ (特許取得済み)

8GB RAM、80%の空き容量があるハードディスク、バージョン15.1.1かそれ以降を搭載しているすべてのMacを検索



プロファイルまたはポリシーを適用

スタティックグループとスマートグループの比較

スタティックグループは、例えば教室や研究室などで使用される特定のデバイスから構成され、グループ全体に管理ポリシーを適用することが可能です。

スマートグループは、インベントリデータに基づき常に変化する動的なもので、デバイスを動的にグループ化し、構成プロファイルや制限を導入することができます。



5

セキュリティとプライバシー

デバイスのセキュリティやプライバシー、企業リソースへのアクセスは、どの組織にとっても一番の懸念点となっています。このような懸念を和らげるため、macOS、iOS、iPadOS、tvOSには数々のセキュリティ機能が搭載されています。

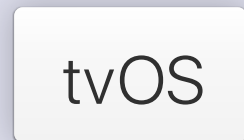
これをMDMソリューションと組み合わせることで、デバイスだけでなくアプリやネットワークの安全性も確保できます。



iOSとiPadOSのセキュリティ機能



macOSのセキュリティ機能



tvOS



ソフトウェアのアップデート



セキュアなシステム



App Store



Touch ID



ハードウェアの暗号化



アプリのサンドボックス化



プライバシー



監視



ソフトウェアのアップデート



システム整合性保護 (SIP)



Gatekeeper



App Store



FileVault暗号化



XProtect



アプリのサンドボックス化



プライバシー

tvOSには、Appleからの直接のソフトウェアアップデート、審査され安全性が確認されたApp Storeのアプリ、アプリのサンドボックス化によるアプリデータ保護、監視を通したより深い管理など、iOSに見られる多くのセキュリティ機能が搭載されています。

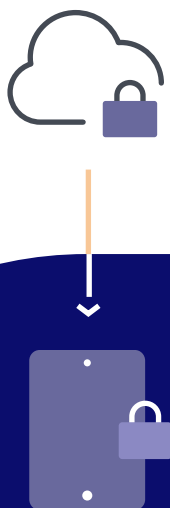
MDMを利用することで、Apple TV用の設定を導入してAirPlayのセキュリティを自動化することができます。これにより、AppleデバイスとApple TVをペアリングし、適切なデバイスだけに画面のワイヤレス共有を許可することができますようになります。



セキュリティ

Unixをベースに作られているAppleのオペレーティングシステムは、中核に強力なカーネルを備えています。セキュリティを考えて設計されているAppleのOSには、独自のセキュリティ設定が内蔵されており、これはMDMソリューション経由で管理することができます。

さらに、Appleデバイスの導入プログラムとMDMソリューションを併用することで、組織の環境内でこれらの設定をより細かく設定することが可能になります。



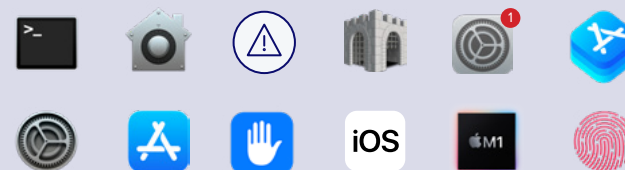
Appleデバイスの
導入プログラム



管理



Appleの
セキュリティ機能



AppleのOS



Apple OSのベース

UNIX



セキュリティ

macOS、iOS、iPadOS、tvOS向けの MDMセキュリティコマンド

macOS



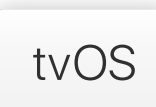
- FileVaultの強制適用
- Gatekeeperの設定適用
- ソフトウェアアップデートの設定
- コンピュータのロック、ワイプ、再起動
- 制限されたアプリの削除
- MDMの削除

iOS/iPadOS



- 紛失モードの有効化
- デバイスのロックとワイプ
- リモートワイプ
- iOSのアップデート
- 制限とパスコードの解除
- MDMの削除

tvOS



- 紛失モードの有効化
- デバイスのロックとワイプ
- リモートワイプ
- iOSのアップデート
- 制限とパスコードの解除
- MDMの削除



MDMによるiOS/iPad向けの紛失モード

Appleの紛失モードをMDMソリューションと組み合わせることで、継続的な追跡によるプライバシーへの影響を心配せずに、紛失や盗難にあったiOSまたはiPadOSデバイスをロックし、発見することができます。紛失モードが有効になると、カスタマイズ可能なロック画面メッセージがiOSデバイスに表示されます。デバイスは使用できなくなり、位置情報がIT部門に送信されます。



条件付きアクセス

Windows Azure ADやOffice 365を利用している組織にとっては、Macデバイス向けに条件付きアクセスパスを適用することが非常に重要になります。業界トップクラスのMDMソリューションには、条件付きアクセスの統合が内蔵されています。



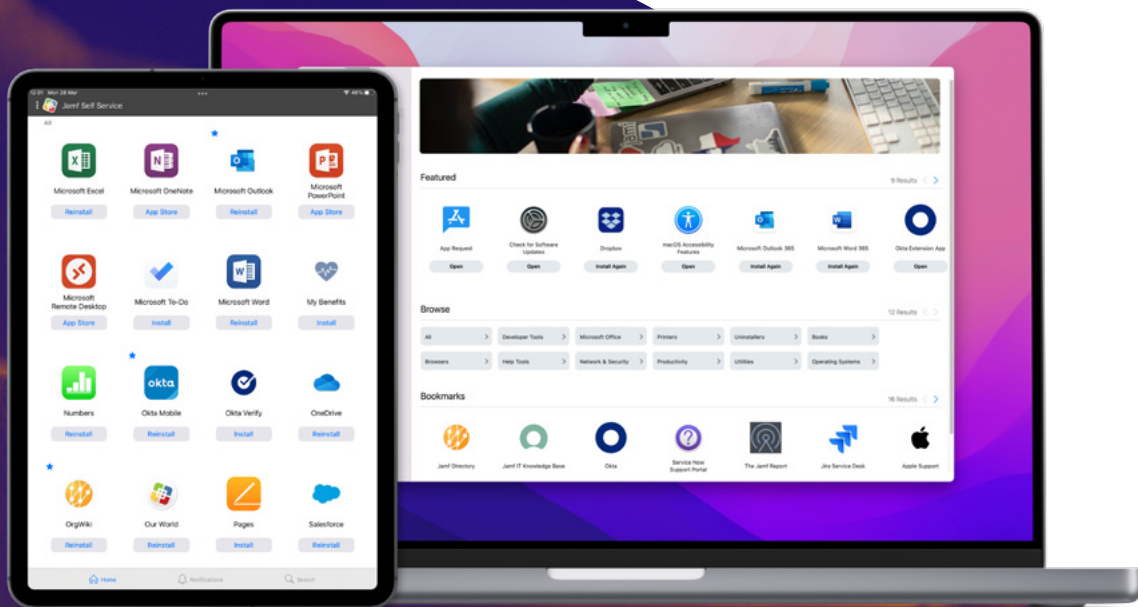
ソフトウェアのアップグレード

macOS、iOS、iPadOS、およびtvOSの大型リリースを毎年行うことで、Appleはペースを落とさずにイノベーションを突き進めてきました。Appleは毎年、消費者向けに新機能を発表するだけでなく、セキュリティの強化と脆弱性の修正を行います。これらのアップデートは、従業員や生徒が使用するデバイス上のデータを保護する上で非常に重要です。そのため、Appleからリリースされたアップデートの導入はもちろんのこと、それに伴う新しい管理機能も迅速にサポートしてくれる管理ソリューションが必要になります。



ニーズに応じたユーザ支援

Lyft、Headspace、Duolingoのようなオンデマンドツールの台頭により、今日のワーカ―は必要な時に必要なツールを入手することを求めています。エンタープライズのアプリカタログは、リソースやコンテンツ、ヘルプ、信頼できるアプリへのワンクリックアクセスを提供します。これにより、ユーザはIT部門に問い合わせることなく、必要なものを手に入れることができます。



モバイル用アプリカタログ

MAC用アプリカタログ

エンタープライズのアプリカタログ経由でアクセスできるもの

- App Storeのアプリ、B2Bおよび自社アプリ、サードパーティーソフトウェア
- メール、VPN、その他の構成
- 電子書籍、ガイド、ビデオ
- ブックマークとショートカット
- プリンタのマッピングとドライバ
- ヘルプデスクへの問い合わせやハードウェアのリクエスト
- パスワードのリセットとコンプライアンス情報
- 基本的なメンテナンスやシステム診断
- ソフトウェアとOSのアップグレード
- シングルサインオン (SSO) との統合
- 英語、フランス語、ドイツ語、日本語、中国語 (簡体字) の言語対応

JamfのSelf Serviceは、組織のリソースやイントラネットとのシームレスな統合も可能なmacOS、iOS、iPadOS用アプリです。



ニーズに応じたユーザ支援

オンデマンドアプリとリソースカタログのメリット

ITチームにとってのメリット

- 組織の環境をコントロールしながら、ヘルプデスクへの問い合わせやサポートコストを削減
- 管理対象のmac、iPad、iPhoneにアプリカタログ(例:Jamf Self Service)を自動インストール
- ディレクトリサービスとの統合により、部署、ユーザの役割、ロケーションなどに基づいてコンテンツをパーソナライズ
- パスワードのリセットやシステム診断など、一般的なITタスクを自動化

ユーザにとってのメリット

- さまざまなリソースに好きな時に自分でアクセス
- 使用言語や環境に合わせてパーソナライズされた直感的なユーザインターフェース
- 企業情報へのアクセスを提供する、HR関連ツール、コミュニケーションプラットフォーム、社内リソースなどの一般的なウェブサービスのブックマーク
- ITの助けを借りずに組織が承認したアプリをセルフインストール
- プリンタのインストールやソフトウェアのアップデートなど、一般的なITタスクを迅速に解決
- 利用可能なサービスやセキュリティの強化について、リアルタイムで通知を受信



サードパーティとの統合

Appleデバイスの管理は、組織で採用されるテクノロジーの一部に過ぎませんが、これは非常に重要かつ不可欠な要素です。ServiceNowのようなヘルプデスクのチケット管理ツールや、OktaのようなSSO認証ツールを含め、既存のITツールとシームレスに統合できるAppleデバイス管理ソリューションを見つけることが重要になります。

Jamf Marketplaceに見られるようなサードパーティツールとの統合は、既存のツールやエコシステムの持つ力を増幅してくれます。業界の枠組みを超えた統合から特定のソリューションまで、このような統合はITチームと各サービスの架け橋となり、統合された安全でシームレスな体験をエンドユーザに提供します。

トップクラスのMDMソリューションは、既存の企業リソースに合わせてアプリカタログをブランディングできる機能を提供します。これにより、既存の社内ツールとシームレスに統合した、ユーザにとって馴染みやすく使い勝手の良いアプリカタログが実現します。



インフラ計画

デバイス管理ソリューションの選択と同じくらい重要なのが、それをどこでホスティングするかです。クラウドでホスティングする場合、アップグレードが容易になるだけでなく、サーバの管理やトラブル処理などを含む多くのタスクからITチームを解放してくれます。

クラウドに移行する組織がますます増えています

エンタープライズは以下を含む多くの理由からクラウドを利用しています。

クラウドホスティングのメリット



サーバのプロビジョニング、セキュリティの維持、アップデート管理



バックアップ管理と検証



世界中どこからでもアクセス可能なストレージ



オフサイトでトラブルが発生した際の対応



データベース管理、セキュリティの維持、アップデート



サーバの監視と対応チーム



エンタープライズにおける Appleデバイス管理のスタンダード

Appleは、異なるデバイス間で互換性を持つアプリやサービスから構成されたエコシステムの構築を続けています。エンタープライズ間のパートナーシップ (IBM、Cisco、SAPなど) や従業員選択プログラムの拡大に伴い、Mac、iPad、iPhone、Apple TVの業務利用はますます増加する見込みです。

Appleデバイスとテクノロジーの持つ力を最大限に活かすには、Apple製品を利用する組織の成功を最優先に考える管理ソリューションが必要になります。

Apple製品の管理におけるゴールドスタンダードとして2002年以来Appleのエコシステムにフォーカスを置いてきたJamfは、従業員や生徒にApple製品を提供し、エコシステム全体で一貫した管理体制を確立したいと願う企業や学校から大きな信頼を寄せられています。

**無料トライアルでJamfのパワーを
実際に体験してみませんか？**

[無料トライアルに申し込む](#)

または販売代理店までお問い合わせください。